

令和6年度 東村山市立学校 自己評価シート【2月】										東村山市立東村山第五中学校 校長 白田 統志夫													
学校の教育目標 （育成を目指す資質・能力）		「磨きあう ころこ」 「鍛えあう からだ」 「高めあう 学力」 「助けあう なかま」										その他 特記事項		地域での体験活動を重視する									
目指す学校像（ビジョン・ミッション） （１）五中生を校内・校外で活躍させる。 （２）五中生の学力向上を目指す。																							
【目指す学校像】 ①生徒が自主的に行動し、目を輝かせて日々の学校生活を楽しんでいる。 ②教職員が生き生きと仕事をし、自分の学校に誇りをもっている。 ③保護者や地域から信頼され、保護者と地域と教職員が協力して生徒を育てている。												【目指す教師像】 ①生徒個々の良さに気づき、可能性を広げるために努力する教師 ②生徒の学習意欲を向上させるために授業の工夫改善に取り組む教師 ③生徒の心に寄り添い、保護者の思いを理解し、生徒・保護者から信頼される教師						【目指す児童・生徒像】 ①自他の良さを理解し優しく思いやりのある生徒 ②元気で逞しく心身ともに健康な生徒 ③目標に向かって互いに学び合える生徒 ④貢献する心があり周りへの協力を惜しまない生徒					
領域	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価				成果指標（児童・生徒等の実容・成果）	成果自己評価				成果指標（保護者の理解・成果）	成果自己評価				中間申告（分析・修正案）	最終申告（分析・改善策）			
					6月	11月	2月	評価		6月	11月	2月	評価		6月	11月	2月	評価					
学習指導	・主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善と「指導と評価の一体化」を目指す。 ・ICT機器を活用した「魅力のある授業」「楽しい授業」を開発し、生徒の学習意欲を高める。 ・健康な生活スタイルの確立と体力の向上を目指す。	・昨年度の学力調査を教科ごとに分析し、課題を具体化する。 ・夏季休業中に授業改善計画を立て2学期に検証授業を行う。 ・評価評定の方法について教科ごとに研究し、指導と評価の一体化を進める。 ・保健体育が中心となり生徒の持久力を中心に体力の向上を図る。	学力向上推進教師による校内研修を年2回実施し、全教師で授業改善を目指していく。	授業改善に向けた研修を7月に実施し、夏期休業中に各自が学力調査の結果を分析する。また、その結果を基に授業改善を目指す。	目標	75%	85%	95%	A	主体的に授業に参加できたか、また、対話的な学習が進められたかについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	0	家庭での生徒の様子により、意欲的に学習活動に取り組んでいるかを1月の保護者アンケートにより確認する。	目標	60%	70%	80%	B	引き続き授業改善を推進するとともに、家庭学習に重点を置いた校内研修を12月を実施して改善を図る。	教師による授業改善ならびに家庭学習との接続が本校の最重要課題であると捉えている。生徒の学力向上につながる授業改善を力強く推進する必要がある。
			ICT推進教師による実践事例研修を実施し、新たな視点でICT機器を活用した授業を開発する。	ICT機器を活用した新たな授業を2学期までに開発し、授業力の向上を図るとともに、開発した授業を1月に公開する。	目標	75%	85%	95%		ICT機器とタブレット端末の利用状況について、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%		家庭でのタブレット端末の利用状況について、有効活用ができていないかを1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%		授業におけるタブレット端末の活用は進んでいる。生徒もルールを守りながら有効に活用している。家庭での利用普及について検討を重ねる。	授業中におけるタブレット端末の活用は、定着を見せている。タブレット端末を利用した家庭学習も一定程度推進を図ることができた。今後も活用方法の研究を進める。
			各教科毎に「授業と評価の一体化」について研究を深め、評価方法について生徒・保護者に明確にしてしていく。	都内指導教諭の模範授業を参観するなどして各自で研究を進め、その結果を踏まえて生徒・保護者に評価方法を明示していく。	目標	75%	85%	95%	評価方法について分かりやすかったか、取り組みやすかったかについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	評価方法について分かりやすかったか、取り組みやすかったかについて、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	評価方法について、保護者まで届いていない可能性がある。再度、書面で保護者に渡すなど改善を図る。	評価方法について、年度当初に教務から説明するだけでなく、各教科から丁寧な説明が必要だと考えている。事前の説明に重きを置いて取り組みたい。			
			保健体育が「運動強化週間」を設定し、生徒会とタイアップして体力の向上を図る。	東京都の「体力・運動能力調査」の体力合計点において、東京都平均以上を目指す。	目標	75%	85%	95%	体力向上や運動についての意識が高まったかについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	体力向上や運動についての意識の高まりが見られたかについて、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	運動会に向けた生徒の取組は、意欲的で平均評価できる。今後は、運動を継続させることにより、個々の体力増進を図る。	体育の授業や運動が好きな生徒は、全国平均を上回っており、よい結果が出ている。今後も運動時間を確保しながら体力増進を図ってきたい。			
生活指導・進路指導	（１）生活指導 ①全教育活動を通して生徒の自己肯定感を高める。 ②差別や偏見、いじめのない集団づくりを目指す。 ③地域社会とのつながりの中で自己有用感を育ませる。 （２）進路指導 ①自分自身の将来について主体的に考えることができる生徒を育成する。 ②時代や環境の変化に合わせて生き抜くことができる力を育む。	（１）生活指導 ・学級活動を通して生徒の主体性を育てる。 ・現状を的確に判断し、担任・学年・学校と家庭とを常に繋ぐ。 （２）進路指導 ・生徒が主体的に行動する場面を多く設定する。 ・ルールやマナーの指導を徹底することにより道徳心や社会性を身に付けさせていく。	特別活動を充実させることに重点をおいて取り組み、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていく。	毎回「ねらい」を明確にした特別活動を行うことで、より積極的に生徒の主体性を育てていく。	目標	75%	85%	95%	A	学級での「居場所・きずな」の状況について、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	A	学校での「居場所づくり」「きずなづくり」の状況について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	A	各学級ごとに特色を出して「居場所づくり・きずなづくり」に取り組んでいる。生徒の主体性が育まれるように工夫改善を続ける。	生徒の主体性が随所に見られ、学校全体として特別活動の推進が図れたと考えている。ただし、生徒個々の居場所づくりに関しては、工夫や改善が必要である。
			生徒の状況を的確に判断するため、保護者との連携を強化する。	日々の電話連絡や家庭訪問を重視することで、保護者との連携強化を図る。	目標	75%	85%	95%		学校での「居心地」や欠席したときの「安心感」などについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%		学校と家庭との連携について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%		欠席生徒に対して丁寧な取組を継続しているが、それ以外の場面においても保護者との信頼関係を構築できるように取り組む。	授業以外の時間に、積極的に電話連絡や家庭訪問を行った。新規不登校生徒の抑制にもつながった。今後も保護者との信頼関係構築を重視して取り組みたい。
			各学年の「体験的学習」を通して、生徒の社会性やコミュニケーション能力を育てていく。	失敗を恐れさせず、チャレンジしていく力を身に付けさせていく。	目標	75%	85%	95%	自信のコミュニケーション能力について、自信がついているかを1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	生徒のコミュニケーション能力の状況について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	コミュニケーション能力を育ませるに、さらに工夫が必要である。体験学習だけでなく、授業中の活動に多く「対話的学習」を取り入れる。	学年独自の行事を開催したが、年間を通しての体験的学習は不足していた。今後は、宿泊を伴わない行事を多く取り入れることで体験的学習を増やしていきたい。			
			全校で計画的な進路学習に取り組むことにより、自信を付けさせていく。	学年間の発達段階を意識したキャリア教育を実践し、明確な到達度を設けていく。	目標	75%	85%	95%	進路を切り開く力が身に付いているかについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	進路を切り開く力が身に付いているかについて、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	現在、本校のキャリア教育における体系的な進め方を再構築している。特に生徒自ら考えさせる仕組みが必要だと捉えている。	1年生から3年生まで体系的に実施する進路指導を目指す。本校としてのキャリア教育は完成に近い。今後は、指導の中で生徒の主体性を伸ばす工夫をしていきたい。			
					目標	75%	85%	95%	B		目標	70%	80%	90%	A		目標	60%	70%	80%	B		
学校運営	・不登校対策を強化し、新規不登校生徒数を抑制する。 ・特別活動と特別支援教育を推進する。 ・主任教諭の役割を明確にして校内のICTを活性化させる。 ・保護者との信頼関係の構築と保護者同士のつながりを強化する。	・「魅力ある学校づくり」を進め、生徒を校内外で活躍させる。 ・支援が必要な生徒に対して具体的な手立てを講じて、生徒の登校意欲を高めていく。 ・主任教諭をリーダーとした各種校内研修会を企画し、校内の推進力を強化していく。 ・本校保護者会「五中サポーターズ」と連携して「トークルーム」を開設し、保護者同士の連携と学校との信頼関係の構築を目指す。	不登校対策推進教師が、生徒の欠席状況を常に把握し、学年・担任と連携しながら具対策を提示する。	自己申告において学年・学級の不登校の未然防止について確認し、欠席傾向が見受けられた場合は、すぐに不登校対策推進教師と連携して取り組む。	目標	75%	85%	95%	A	「魅力ある学校生活」が送られているか、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	0	生徒の「登校意欲」の状況について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	0	学校行事が生徒の登校意欲を高めているが、新規不登校生徒の抑制にはつながっていない。個々の生徒の状況を分析し、改善を図る。	新規不登校生徒の発生率が大きく減少した。このまま継続することで、全体としての不登校生徒減少につなげたい。
			学級活動の「ねらい」を明確に定め、生徒の主体性を育てながら全校体制で進めていく。	特別活動推進教師が常に教員をリードして進める。特別活動を行うにあたっては、目標をその都度明示する。	目標	75%	85%	95%		生徒が主体的に学級活動や生徒会行事に参加できたか、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%		生徒が主体的に学校生活を送れているかについて、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%		多くの生徒に積極性が見られる一方で、主体性については、さらに伸ばす必要がある。今後、学級活動の活性化を目指す。	昨年度と比較してさらに特別活動の推進を図ることができた。この取組により一定程度、不登校生徒の抑制にも効果があったと考えている。
			特別支援教育の校内研修により、生徒理解を深め、個々の生徒に適切に対応できる力を身に付けていく。	特別支援教育推進教師が中心となり、校内委員会を十分に機能させて、教師の指導力・対応力を高めていく。	目標	75%	85%	95%	「過ごしやすい環境であるか」や「教師への相談のしやすさ」等について、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	生徒にとって学校が過ごしやすい環境であるかや教師に相談しやすいか等を1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	保護者アンケートから概ね「安全な学校生活が送られている」と捉えている。引き続き生徒の健康・安全を最優先に考えて教育活動に取り組む。	生徒理解を深めるために、特別支援教育の研修と推進を図ってきた。生徒や保護者の意見から、概ね過ごしやすい環境であると捉えている。			
			「五中サポーターズ」代表者との定期的な打ち合わせとトークルームの開催	五中サポーターズ代表者との定期的な打ち合わせを通して「トークルーム」の開催方法、保護者と教職員の連携方法について検討を重ねていく。	目標	75%	85%	95%		目標				保護者にとって「訪問しやすい学校であるか」や「協力しやすい体制であるか」など、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	家庭から学校への相談体制に課題があるが、新規不登校生徒の抑制にはつながっていない。個々の生徒の状況を分析し、改善を図る。	保護者との連携については、高い評価をいただいていたが、相談しやすい学校かどうかの視点では、課題が残った。今後は、相談窓口等をつくることで改善したい。			
					目標	75%	85%	95%	0		目標				A		目標	60%	70%	80%	A		
特別活動・その他	・生徒を活躍させる場を多く提供するとともに「こどもの意見表明の場」を推進していく。 ・生命尊重と人権尊重の教育を推進していく。 ・ボランティア活動を通して生徒のコミュニケーション能力を育成していく。	・生徒会活動、専門委員会、実行委員会、係活動等を通して自己肯定感を高める。 ・「心と心のふれあい」、「体験型学習」を積極的に取り入れ生徒に感動体験をさせる。 ・異学年交流を活発化させリーダーを育成する。 ・地域の方や地域の子とたちとのふれあいを通して、コミュニケーション能力を育成する。	生徒を主体とした取組や活動を推進することで、生徒の自己肯定感を高めていく。	生徒に関わる活動については、常に特別活動推進部が目標を明示し、教師の役割を認識した上で、生徒主体で進めていく。	目標	75%	85%	95%	A	特別活動への充実度や主体的に活動できたか等について、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	0	学校が取り組んでいる特別活動への理解度や生徒の主体的が育っているか等について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	A	特別活動が校内で推進され、生徒が主体的に取り組む場面が増えている。今後、さらに生徒の意見を吸い上げる仕組みを構築したい。	生徒が主体的に取り組む場面は増えているが、そのことが保護者には伝わっていない。生徒の活躍を発信していくことが大切である。
			校外での活動を通して、「他者とのふれあい」や「地域における役割」を学び、自己有用感を育てていく。	校外で本校生徒を活躍させる手立てを各教員が講じて「活躍の場」を多く設定する。	目標	75%	85%	95%		校外で活動する場面があったか、自分が地域で役に立つ場面があったか等について、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%		校外で中学生が活動する場面や地域で役に立つ場面があったか等について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%		生徒が校内外で活躍する場面は確実に増加している。さらに推進して自己有用感を育てたい。	今年度は、行事や部活動で活躍する生徒が増えた。生徒のリーダー育成にもつながり、下級生への良い影響も出始めている。
			小学校児童と中学校生徒会との連携において、中学生にリーダーシップを発揮させ、リーダーとしての力を身に付けさせていく。	特別活動推進部が中心となり、本校生徒会と校区の小学校をつないでいくことで、小中学生の活躍の場を設定する。	目標	75%	85%	95%	小学校との連携した取組について、充実していたか、中学生としてのリーダーシップを発揮できたかについて、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	小学校との連携によって、中学生のリーダーシップが発揮されているか等について、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	小中連携は定着が図られているが、中学生にリーダーシップを発揮させる機会を、さらに増やせると考えている。	小中連携が進み、生徒の主体性にもつながり、よい成果を上げている。参加生徒の広がりについては改善が必要である。また、連携の機会についても増やす必要がある。			
			ボランティア活動を通して、社会性とコミュニケーション能力を高めていく。	小学校の学習ボランティア・幼稚園との交流ボランティア・社会教育課連携地域清掃・青少年対連携ボランティア等、各種ボランティアを通して健全育成を進め、社会性を身に付けさせていく。	目標	75%	85%	95%	ボランティア活動に参加して活躍することができたか等、1月の生徒アンケートにより確認し、肯定的評価を90%にする。	目標	70%	80%	90%	本校が進めるボランティア活動に生徒が参加することで社会性やコミュニケーション能力が育っているか、1月の保護者アンケートにより確認し、肯定的評価を80%にする。	目標	60%	70%	80%	ボランティアに参加する生徒は、徐々に増えてはいるが、同じ生徒の参加が多い。今後は、生徒会を中心に波及効果を生かしながら改善を図る。	ボランティア活動の定着と推進が図られているが、コミュニケーション能力の育成が図られているとは言えない状況である。対話を増やすなどの工夫改善をしたい。			

前年度の学校評価を活かして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、特に重点となる各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を%で自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はC、8割未満はB、10割未満はA、目標超えはO(over)の標語を記入する。